

第12回八幡市まち・ひと・しごと創生検討懇談会会議録要旨

○日 時：令和6年10月24日（木） 10：00～12：00

○場 所：八幡市役所本庁舎 3階 会議室3-3

○傍聴者：なし

1 開会

2 議事（協議・報告）

（1）次期総合戦略の策定について（資料1、資料1別紙）

→事務局が作成した次期総合戦略の序論及び前回懇談会から修正した箇所への意見

3 その他

懇談会でいただいたご意見について

→いただいたご意見について、とりまとめのうえ、庁内で共有するとともに、本日の会議内容について、議事録を作成のうえ、市ホームページにて公開を予定している旨説明、了承。

4 閉会

【主な意見等】

次期総合戦略のタイトルについて

（事務局案として、次期総合戦略のタイトルを現行の総合戦略と同じ「八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を提示）

<委員>

タイトルが変わってないことは、市民から見て、中身が変わってないと捉えられかねないのではないかと考える。情報発信の観点から見ても弱いと考える。

<委員>

タイトルはそのままにしておき、デジタルや市民協働等市長のカラーに因んだ副題を付けるのはどうか。

<委員>

副題は短くシンプルなものの方が良いのではないかと考える。また、重点思考的なものを付けるのも良いと考える。

<委員>

副題はデジタルとリアルな人が見えるようなものの方が良いのではないかと考える。

<委員>

副題を付けずに、事務局案のままパブリックコメントを募集し、市民の意見を聞いてみるのも良いと考える。

1. はじめに

<委員>

資料 1、2 頁の〈第 3 期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けて〉の記載について、便宜的なものかもしれないが、次期総合戦略のタイトルとの兼ね合いから、問題はないか。また、文末が「～を策定しました」となっているため、文言の修正をしてはどうか。

2. 八幡市の地方創生の現状

<委員>

資料 1、6 頁に 20 代を記載している背景は何か。

<事務局>

八幡市において、全年代の中で転出者が最も多いのが 20 代。今後の八幡市を支える中心となる 20 代の転出抑制をしていくことが重要であると考えている。また、特に 20 代の日本人と記載しているのは、ここ数年の 20 代の人口移動を見ると、転入超過となっているが、その要因は、外国人の技能実習生の転入であり、日本人で見ると転出超過の状況となっている。

<委員>

20 代の書き出しの部分に、20 代を取り上げている背景を記載されると良いのではないか。

<委員>

20 代の日本人の転出が多い理由は何か。

<事務局>

20 代前半だと就職をするタイミングであり、大阪市等都市部への転出が多い。20 代後半だと、持ち家を持ち、宅地開発を行っている近場の京田辺市への転出が多い。現状の八幡市内だと新たな宅地開発できるスペースに限界がある。

<委員>

20 代の前半と後半を分けると、より転出の要因が分析できるのではないか。20 代前半の転出は就職が主な要因であると考えられるため抑制することは難しいとなると、転出抑制・転入増加のターゲットは 20 代後半になると考える。イメージではあるが、子育てを始める 20 代後半から 30 代の若い人にとって、駅近くに住まいがあることは重要であり、その年代を呼び込むためには、そういった住環境の整備をすることが、重要ではないかと考える。

<委員>

他の自治体では、駅近くに若い人が住めるような住環境を整備し、実際に若い人を呼び込めた事例がある。ただし、八幡市は「日本一魅力的なスローライフタウン」を目指すということで、住環境を整備するにあたり、そことの整合性を取ることに留意する必要があると考える。

6. 総合戦略の全体像

<委員>

市民と行政が一丸となってまちづくりを進めていくことや、新たに加わった「デジタル」が見えるような絵になると良いと考える。

<委員>

月の部分が月に見え辛いと感じる。

<委員>

星に記載されている文字が、星毎に様々な方向を向いている。文字の向きを統一されると見やすくなると感じる。

<委員>

絵自体を変更するのはどうか。もしくは絵を削除することも良いのではと考える。

<委員>

デジタルを新たに加えたのなら、わかりやすく絵に表現したらどうか。

7. 総合戦略

【1. 子どもが輝く未来の創生「やわた子ども未来プロジェクト」】

<委員>

資料 1、14 頁の基本的方向の部分で、「～子育てをしたい、し続けたい～」について、文言の修正をしてはどうか。また、16 頁のスペシャルサポートルームとはどのようなものか。

<事務局>

スペシャルサポートルームとは、学校には通えるが、教室に入れない不登校の子どもたちが学ぶ教室のこと。非常勤職員も配置されている。

<委員>

良い取り組みだと考えるが、コスト面で懸念があると考ええる。

<委員>

17 頁の KPI の子どもわくわく教室について、現状値と目標値が同じであるが、事務局としてどのように整理されているか。

<事務局>

目標値が現状値と同じであるため、当該項目については、変更を含めて担当課と調整している。

<委員>

18 頁の令和 5 年度から新たに実施されているmamアップパークの人員体制はどのようなになっているか。

<事務局>

事業としては、増えているが、職員が常に動員されるような事業ではなく、動画等外部コンテンツも利用するため、職員の負担は大きく増えていないと考えている。

<委員>

19 頁のデジタルの活用について、他の頁でも同様であるが、事業内容だけでなく、市民の利便性が向上することも併せて記載されると良いと考える。

<委員>

国のデジタル田園都市国家構想を踏まえるのなら、よりデジタルを打ち出すよう、例えばデジタルを1つの柱として記載することも考えられるのではないかと。また、防災アプリを記載してはどうか。

<委員>

市としてデジタルに積極的に取り組んでいることがわかると良い。現状、デジタル対応が各所に置かれてはいるものの、打ち出し方としてまだ弱いと考える。表現等、工夫してほしい。

<委員>

最近強盗のニュースが多い。防犯面でも何か記載できないか。

【2. 健幸都市の創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」】

意見なし

【3. 観幸のまちの創生「訪れてよしのやわた魅力向上プロジェクト」】

<委員>

資料1、24 頁の基本目標について、八幡市への外国人観光客の来訪者数を、観光情報ハウスへの来訪者数で測ることは、スマートフォンを片手に観光地を訪れている現在の状況に照らすと、今の時代に合っていないのではないかと感じる。

<委員>

従来のように団体で来られている外国人もいるが、一方で、個人で来ている外国人が増えてきている。

<委員>

外国人の来訪者数を観光情報ハウスへの来訪者数に代わる指標として、例えばXで、「八幡」がツイートされた回数を調べるのはどうか。

<委員>

インバウンドに関する情報収集は、その時々外国人が利用するツールに合わせていく必要があると考える。

<委員>

外国人観光客への情報発信を行う際においても、日本のホームページに掲載しても、閲覧する可能性は少なく、効果は薄いと考える。

<委員>

外国人観光客が見ているツールに掲載しなければ効果を得られないと考える。

<委員>

外国人観光客のニーズに見合った対応を検討していく旨を、基本的方向に記載してはどうか。

【4. みんなで創る多機能な力を有したまちの創生「住んでよしのやわたチャレンジプロジェクト」】

<委員>

資料1、28頁の基本目標の「転出入者数（うち20代の日本人）」について、外国人のことも考慮に入れ、表現を変えても良いのではと考える。

<委員>

29頁の「スローライフタウン」という表現について、八幡市の考え方はどうか。「スローライフタウン」に代わる良い案があれば、代えても良いのではないかと考える。

<事務局>

スローライフタウンが意味するところの「半分田舎・半分都会」というのは、今の八幡市の土地的な状況を踏まえると、京都市、大阪市のような大都市ではなく、枚方市のような都市が隣にあり、都市的な生活もできる一方で、石清水八幡宮や三川合流域や男山の自然、農地のような文化資源や自然を併せ持つという考えから、次期総合戦略においても存置している。

<委員>

35頁の外国語自動翻訳機の実施内容について、もう少し詳細を記載してはどうか。